

# ボランティアを受け入れた地域の声

- いままで若い方を軽視していた。しかし今回、ボランティアに参加した、自ら進んで積極的に素直に**参加している若者達が光って見えた**。(平成7年阪神・淡路大震災)
- 困っていても、途方に暮れていても自分から「助けてほしい」というのはできそうではなかなか難しいものです。そんなとき、**そっとそばにいて支えてくれる人々**がいました。元気でたくましく、一生懸命働く赤い帽子（ボランティア）の人たちのたくさんの笑顔にとっても感謝しています。(平成12年東京都三宅島噴火)
- 普段はデスクワークをされている方や、慣れない船旅で早朝島に着いたばかりの方々もおられ、汗びっちょりになりながらの力仕事……。今思い出しても胸が熱くなり、ただただ**頭の下がる思いと感謝の気持ちでいっぱい**です。(平成12年東京都三宅島噴火)
- こんな汚い仕事をおねがいしてよろしいのかと考えていた折、友達から「このような時だからお願いしなさい」とうしろから押されてお電話させていただきました。**すぐにテキパキと対応くださって本当に助かりました**。(平成12年秋雨前線豪雨と台風第14号による大雨(東海豪雨))
- ボランティア活動後も、自分の活動先の現在の状況を心配して、連絡をくださる人たちがいます。わざわざ県外から手土産を持って、活動先のお宅を訪ねてくださる方がいます。**一人ひとりの力の大きさと暖かさ**に感謝の言葉がみつかりません。(平成16年7月新潟・福島豪雨)
- あの炎天下、ただ黙々と働く多くのボランティアの方々の、献身的な働きには頭の下がる思いで、いくら**感謝しても感謝しきれません**。(平成16年7月新潟・福島豪雨)
- 隣近所の人たちも自分の家のことで精一杯、疲労の積み重なりで困ばいの実態。こんな最中、ボランティアのみなさんから後片付けなどのご支援を受けた。片付けそのものの喜びとともに、言葉がけや動作そのものの中に**いたわりやさしさ**が込められている。(平成16年台風第23号災害)
- 「どんな人が来るかわからない」と心配する人もいたが、**日頃からボランティアに関わっている私には不安はなかった**。(作業が終わって)ホッとした私に「ため息ばかりついてたお母さんに笑顔が戻ってよかった」とボランティアの人から言われた。(平成19年能登半島地震)



避難所での足湯の様子  
(新潟県柏崎市)  
写真提供：藤室玲治